

Small Talk台本②（第6時・第7時のはじめ5分）

進め方（文科省の型）：帯活動として2時間に1回。6年はペアで伝え合うことを中心に、相手を替えて1～2分×2回。1回目のあとに中間指導（下の「ことばの補給」）を挟む。なりきりではなく**本当の気持ち・本当の出来事**を話す。

話題1 「まだ決まっていない」のあと（第6時）

板書：I don't know yet. のあとに使う3つ ① But what do you like? ② Do you like sports? ③ Me, too! I don't know yet.

T Today, you ask me. Ready? What do you want to be?

今日は先生に聞いてもらいます。いっせいにどうぞ。

T Hmm... I don't know yet.

うーん…まだ決まっていないなあ。（ここで止まる。5秒だまる——これが今日の仕掛け）そのあと「終わっちゃった？」と日本語でたずねる

T It's not the end! Ask me one more. But what do you like?

終わりじゃないよ！もう1つ聞いてみて。「じゃあ、なにが好き？」

S But what do you like?

（板書を指させるだけでもよい）

T I like science! Maybe... a science teacher. Thank you for asking!

理科が好き！もしかしたら理科の先生かな。——聞いてくれたから話がつづいた→ペアで交代。1人がI don't know yet. と言い、相手が質問を1つ返す（1～2分×2回）

つまった子への助け舟：質問が出ない子は板書の3つのどれかを指させるだけでよい。指させたら That's a question! で成立。Do you like sports? のように「はい・いいえ」で答えられる質問でも十分。

話題2 Why? の答えは「好きなこと」でいい（第7時）

板書：Why? → I like ~. / I can ~. [「なぜならば」の英語はまだいらない]

T I want to join the brass band. Ask me: Why?

先生は吹奏楽部に入りたい。みんな、「どうして？」と聞いて。

T I like music. That's all!

音楽が好きだから。——理由はこれだけでいい。長い理由はいらない

T One more. I want to join the tennis club. Why? ... I can play tennis!

もう1つ。テニス部に入りたい。どうして？…テニスができるから！（5年で使ってきたI can も理由になる）

S I want to join the art club. Why? I like pictures.

ペアで「I文 → Why? → I like ~.」を交代で2回

つまった子への助け舟：理由が思い浮かばない子には Do you like music? と2択で聞き、うなずいたら I like music. をそのまま言わせる。「好き」が言えれば、それが理由になる。

中間指導 1回目のあとに全体で（ことばの補給）

1回目のあとに全体で：「I don't know yet. と言われたとき、なんて聞き返した？」→ 出てきた質問を黒板に1つだけ書き足す（But what do you like? / Do you like sports?）。ふやすのは1つだけ。書き足した文は第8時のテストの日まで消さない——テストで先生が「なりたいもの」の答えのあと3秒だまるのは、この1文を目で探せる子を見るため。

対話を続けることば 黒板横に掲示しておく

はじめる	Hello! / How are you?
くり返す	Soccer? Me, too!（あいての言葉をくり返す）
ひとこと感想	Nice! / Wow! / Really? / Good!
たしかめる	Pardon? / One more time, please.
さらに質問	How about you? / Why?
おわる	Thank you. / See you!

先生へ

- ・6年のSmall Talkはペアで伝え合うのが中心。先生の話は1分で切り上げる——ただし話題1の「わざと止まる」ところだけは間をたっぷり取る（5秒は長い。それでいい）
- ・話題1の仕掛けは「答えは返ってきたのに、会話が終わってしまう」場面をつくること。うまく続く練習ばかりしていると、テストで相手が止まったときに手も止まる。質問を1つ返せるかが思判表のa
- ・話題2は「理由を大げさに考えて黙る」子のための時間。because は教えない——I like と I can で十分だと先生が言い切ると、Why? が怖くなくなる

